

点訳通信

46号

盲人情報文化センター 点字製作係
550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2
TEL 06-6441-0015 FAX 06-6441-0039

いつかの少年は あの日のように
川の堤防に立ち 夕日の中に
こちらを向いて笑っていた
逆光の中に隠された影の彼の笑みを
僕は読みとることができた
足元の草が波を起こし 少年の髪が揺らぐ
その一瞬のまばたきに 彼は消えた
ほんの一つのスキを狙っていたかのように
彼はいつもと同じ場所で消えた
いつかの少年
彼は 僕と同じ名前と呼ばれ
僕の子供の頃を何度も演じる
僕はその少年とかわす指きりの指が
今だに離せないままでいる

(『少年時代』 澤田保子)



今年も **10名** の方が点訳技術講習会を終え、点訳活動へと参加いただいております。修了された方々からメッセージを頂いておりますのでここに紹介させていただきます。
新に参加された方の新鮮な眼差しで新たな提案をしていただければ幸いです。

点訳講習を修了して

吉田 泰子

6か月の講習を修了して、実際に点訳活動に参加させていただける日がきたことを、嬉しくありがたく思います。

一昨年、わたしは「盲人情報文化センター20周年記念式典」の案内記事をたまたま新聞で見て、参加する機会を得ました。情報環境についての講演や、『弱視OL奮戦記』という本を書かれた芳賀優子さんの講演を聴けたのもラッキーでしたし、同時に、盲人情報文化センターの活動についても知ることができてよかったです。わたしもここで作業のお手伝いできればと、その時何となく思い始めたのです。

もともと本やことばに関心があったのと、パソコンを始める自分なりの動機づけを探していた時だったことが合わさって、盲人情報文化センターで点訳を学ぶことに（勝手に）決めました。点訳は、墨字の文章を正確に点字に写す作業、という知識はあったのですが、「正確に」「分かり易く」という実際の大変さと深さが分かったのは、講習を受け始めてからでした。文を正確に音読し、内容をきちんと読み取らないと、点訳できないということもよく分かりました。勉強にもなり、やりがいのある作業だと思います。

先輩方に教わりながら、長く続けていきたいと思っています。 (よしだ やすこ)

ごあいさつ

辻 志津江

今回皆様のお仲間の端に加えていただく事になりました。辻志津江で御座います。些か向こう見ずの慌て者ですので失敗が多い事かと思えます。

3年程前に、NHKテレビと朝日新聞で、点訳について紹介されていたのを見て、「やってみたい！」で、飛び込んだのですが、あまりに大きな仕事であった事に戸惑っております。お仲間に加えていただけた事だけでも大変嬉しい事だと感謝しています。とにかく丁寧に、一生懸命にやりたいと思います。何卒宜しくお願い申し上げます。 (つじ しずえ)

点訳講習会を終えて

植山 ひろみ

ご指導いただきました先生方、皆様ありがとうございました。
私も休むことなく講習を終えることができましたことを感謝しています。これからのライフワークに何か充実感をもてるものかと思っていた私にとって点訳は本が読め家でできるのであるのではないかと思います。

講習会では習ってもすぐに頭の中を通り抜けてしまい、さびた頭にはなかなか落ち着いてはくれません。でも先生方の暖かいご指導や皆様の熱心ですごい意欲に刺激を受け、私も修了証書を頂くことができました。感謝しています。

これからが本を作る活動です。パソコン操作、分かち書き、読みなど不安がいっぱいですが、本を作り上げたときの喜びを思い描きながら頑張りたいと思います。

これからもご指導よろしくお願いします。

(うえやま ひろみ)

ライトハウスとの再会

東川 純子

もう二十年ほど前になります。何も目指すものがなく、ただ何となく学校に通っていた頃、何がきっかけだったか覚えていませんが、急に盲導犬の訓練士になりたくてライトハウスに問い合わせたことがあります。その時、とても丁寧なお手紙をいただき感動したことを今、思い出します。(盲導犬の訓練士にはなりませんでしたが。)

そんな出来事があったことは、日常の生活の中でもうすっかり忘れていました。子供も少し手がかからなくなり、何か自分の事をしたいなと考えていた矢先、ふと目にした新聞にライトハウスの名前をみつけ、二十年前の記憶がよみがえりました。だめでもともと。とりあえず応募してみることにしたのが、今回の始まりでした。

講習会は大変でしたが、先生の赤いペンなしに宿題が返ってくることを目指して、久しぶりに充実した日々を過ごすことが出来ました。点訳者になるには忍耐と根気が必要だと書いてあったことに、不安を感じていますが、私なりに頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。ライトハウスとつながりが持てたことをうれしく思っています。

(うのかわ じゅんこ)



点訳技術講習会を終えて

疋田 ひろ子

4年前、引越しのため、せっかく受講していたパソコン点字講習会を、途中で辞めざるを得なくなり、今回は再挑戦でした。 やっと、4年越しの終了証書を頂くことができ、ほっとする気持ちと同時に、本当にできるのだろうかとの不安で、ワクワク、ドキドキしています。

若い頃、盲児施設で働いていました。未熟な大人だった私は、子供たちに教えられる事の多い毎日でした。点訳はそのころからの夢でした。今、子供たちは大人となって、それぞれの場で頑張っています。いつか、私の訳した点訳書を読んでもらい、「先生、すごいね。」と、誉めてもらえる日が来ることを楽しみに、これからも頑張ろうと思います。

いつも、あきらめないで、手取り足取り教えて下さった 国本先生、奥村先生、そして、骨を折って下さった木村さん、本当にありがとうございました。でも、これで終了ではなく、これからが本当のスタートなんですね。新米点訳者を、これからもよろしくお願いします。

(ひきだ ひろこ)

楽しかった点字の勉強

真鍋 教子

点訳という言葉を知ったのは、2、3年前N. H. K. 教育テレビで、最初から点字を学ぼうと言うような番組を、チラッと見たときでした。

点字もその時、初めて見ました。講師は、ライトハウスの男性の方だったと思います。

今回、人づてに講習があると聞いて、先生は、テレビに出ておられた方かな？とミーハー気分で応募しました。

先生は、女性の方二人でした。優しく、明るく、ちょっぴり厳しい所もありましたが、最後まで楽しく勉強できました。

体力の衰えを感じている今日この頃ですが、家で辞書を頼りに、こつこつと勉強をしています。これからも皆様に助けをいただきながら、点訳を続けたいと思っています。

どうかよろしくお願いします。

(まなべ きょうこ)



爽やかな風

古川 由香理

講習会の最後の日、館長の岩井氏のお話がありました。中途失明者が点字を読むということは、自分を障害者として認めることになるとお話しになり、その苦悩と、自分を「受け入れる」ことへと話は続いていきました。その中で、大島健甫けんすけ氏の「手と心で読む」という文章の一部をお読みにになりました。大島氏は中途失明者です。

「そんなわたしに、点字を覚えるように働きかけたのは、母でした。母は、いつの間にか点字を習いに通っていたようです。1944年の冬のある日、病室にやってきた母は、少しあつめの紙をわたしに手わたして、言いました。

『いっしょに勉強してみようよ。』

母が自分の手で打ってきた北原白秋の詩を、わたしはわすれることができません。

からまつの林を過ぎて、

からまつをしみじみと見き。」

私は、岩井氏の、点字の上を滑っていく指のなめらかな動きと、お声の響きに心を打たれました。と同時に驚きました。岩井氏の読まれたものが、講習会で読んだたくさんの方の文章の中で、私が最も印象に残っているものと、全く同じだったからです。

私は、点訳の宿題として出された、この文章を読んで、母親の気持ちを思わずにはいられません。自分の息子が失明するとわかったときの母親の心を。決して自分が代わってやることができない、その苦しみを。でも、母親は、すぐに息子の現実を受け入れ、すっと立ち上がり、点字を覚えるという行動を起こします。「いっしょに勉強してみようよ。」と言う、おかあさまの声は、きつと静かで穏やかだったろうと想像します。苦難を乗り越え、新しい人生を生きる、すがすがしい表情をなさっていたらと思うます。

点字を打つ手が止まりました。涙をぬぐわなければ、パソコンの画面が見えませんでした。このおかあさまの態度は、爽やかな風となって、今も私の心の中に吹いています。

私の娘は、二分脊椎症にぶんという先天異常を持って生まれてきました。生まれたとき「24時間以内に手術をしなければ命がない」と言われた子が、10歳になりました。この子の命を守るだけで精一杯でした。最近、少し状態が落ち着いてきました。私も心の余裕がでてきて、「何かやりたい」と思うようになりました。そして、点字と出会いました。

娘は、歩けない、排泄障害がある、水頭症がある、無呼吸発作（突然息を止める）を起こすなど、多くの問題を抱えており、ケアが必要です。ですから、私の活動時間は制限されます。現に、講習の間に、前期は息子が交通事故に遭って入院し、後期は娘が手術、入院するという事態が起こり、欠席しました。これからも、何が起きるかわかりません。私は、決して無理はしません。できるときに、できるだけのことをしようと思っています。

私は、点訳者として、また、母親として、大島健甫氏のおかあさまが届けてくださった、爽やかな風を、ずっと心に吹かせていたいと思っています。

わからないことが、たくさんあります。どうぞよろしく願いいたします。

(ふるかわ ゆかり)

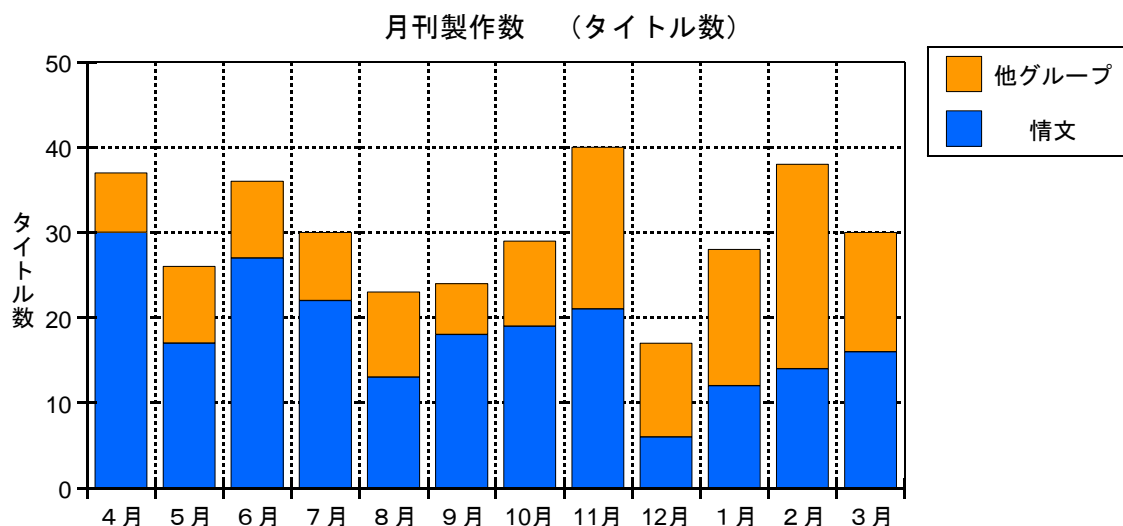
利用者本位の図書館を目指して

— 2000年度を振り返って —

2000年度は358タイトル、1705冊の図書を供給することができました。ありがとうございました。しかし残念なことは毎年製作量が減少してきていることです。2001年度はこの低落減少に歯止めをかけ、少しでも多くの図書を供給できる体制にしていきたいと思っております。

[注] グラフはカラーで編集しております。印刷物はモノクロとなり一部判別が難しいものもあります。事務所にカラー印刷をしたものを一部用意しております。詳しくはそちらをご覧ください。

1) 月刊製作統計

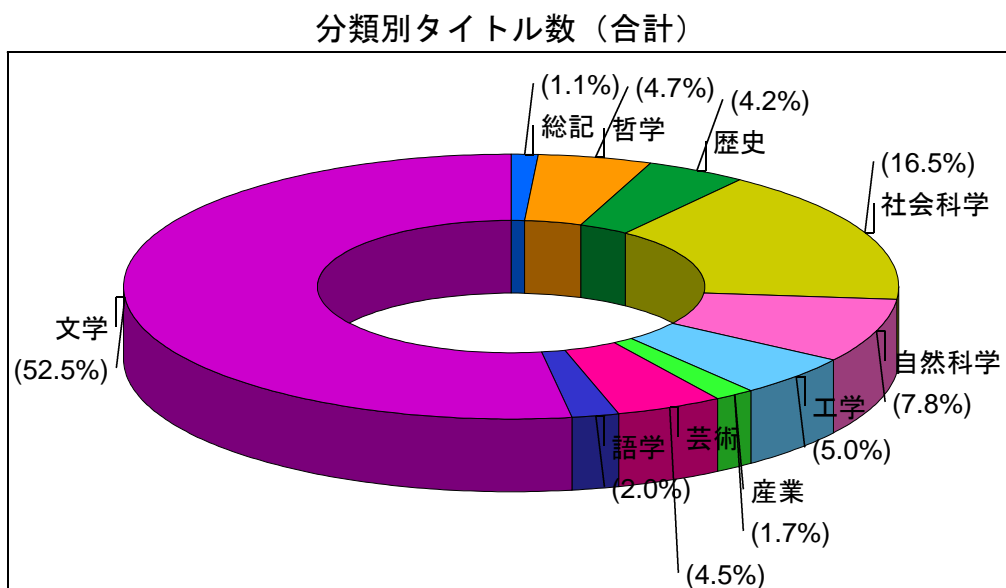
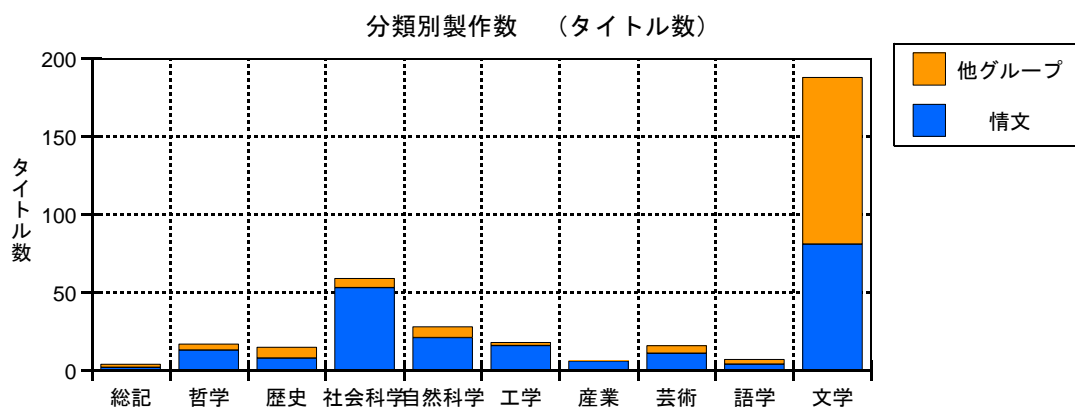


月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
情文	30	17	27	22	13	18	19	21	6	12	14	16	215
他グループ	7	9	9	8	10	6	10	19	11	16	24	14	143
合計	37	26	36	30	23	24	29	40	17	28	38	30	358

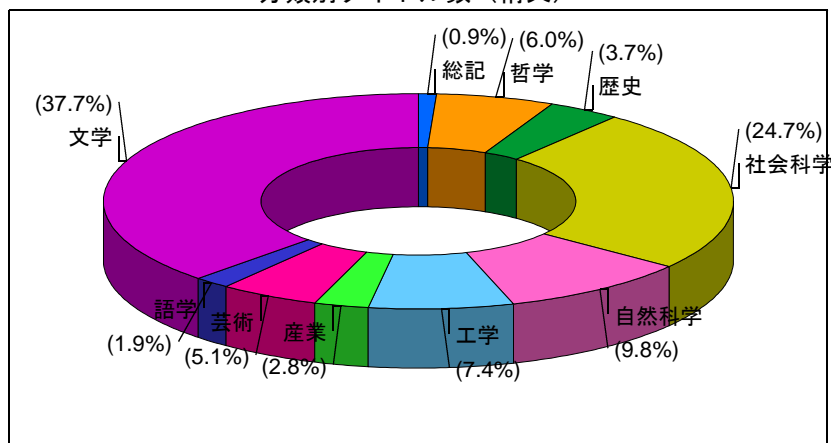
他グループ (FEYE いちご 虹の会 バラの会 むつみ会 エスペラント関係グループ
児童点字図書製作グループ 大阪 YWC A点字子ども図書室 その他)

2) 分類別製作統計

分類別の製作状況は文学書が一番多く、118タイトルで53%を占めています。図書館の設置目的により貸し出し傾向は違ってきますが、市民対象に設立された公共図書館の利用状況を見ますと、約6割を文学書が占めると言われています。その意味では妥当な数字だと言えますが、情文に限ってみますと38%と比率が低くなります。反対に社会科学系統の図書は25%、自然科学系統の図書は10%と高くなっています。



分類別タイトル数（情文）



分類	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	合計
情文	2	13	8	53	21	16	6	11	4	81	215
他グループ	2	4	7	6	7	2	0	5	3	107	143
合計	4	17	15	59	28	18	6	16	7	188	358
%	1%	5%	4%	16%	8%	5%	2%	4%	2%	53%	

3) 年度別製作タイトル数

情文の製作タイトル数は1997年の294タイトルを頂点に毎年減少し、2000年度は215タイトルと79タイトル、率にして27%も減少しています。幸いにしてグループの方々からの供給量が増えた結果、1999年度に比べ微増に転じることができました。減少の原因はいろいろ考えられますが、どれも数値化することは難しいものばかりです。

まず、1997年度と2000年度を比較すると、2000年度は文学関係が減少し、社会科学・自然科学関係図書のウエイトが上がっています。最近の図書はビジュアル化し点訳には高度な技術が必要とします。また、下調べにも時間を必要とし、製作に必要なエネルギーが以前に増して大きくなっているものと考えられます。全体的に点訳の難易度の高い図書を対象としている傾向があると言えます。

次に、教科書の取り組みも考えられます。以前は教科書点訳グループなど外部のボランティア・グループに依頼していたものを内部のボランティアに依頼していることも大きく原因しています。供給時期が決まっている教科書をどうしても優先する結果、蔵書点訳に振り向ける時間が減少します。

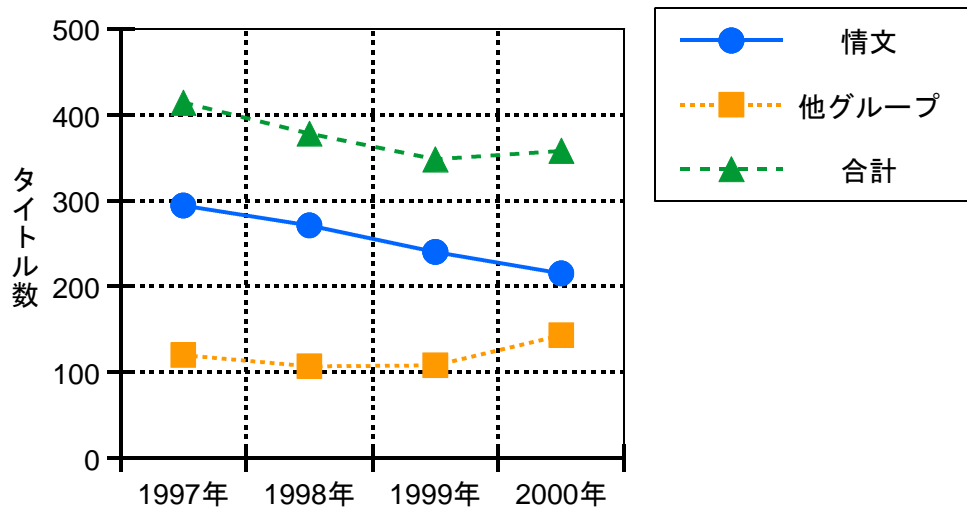
同じように、リクエスト点訳も蔵書製作減少の原因になっています。リクエスト図書は学習参考書や大学の教科書、万葉集など大部のものも多くあり、一冊の図書を数人から十数人のボランティアが点訳する場合もあり、かなりの時間をリクエスト図書製作に割きました。

校正に関して、徐々に2校化のウエイトを上げてきましたが、2000年度は完全2校化に切り替えました。校正へのエネルギーの配分も製作量と緊密な関係があるものと思われます。

また、最近の傾向ですが、家族の方を介護しなければならない事情で点訳活動を中断、中止される方が増えてきています。毎年、講習を終えた方々が点訳活動に参加していただいておりますが、それを上回り、登録ボランティアの減少が見られます。

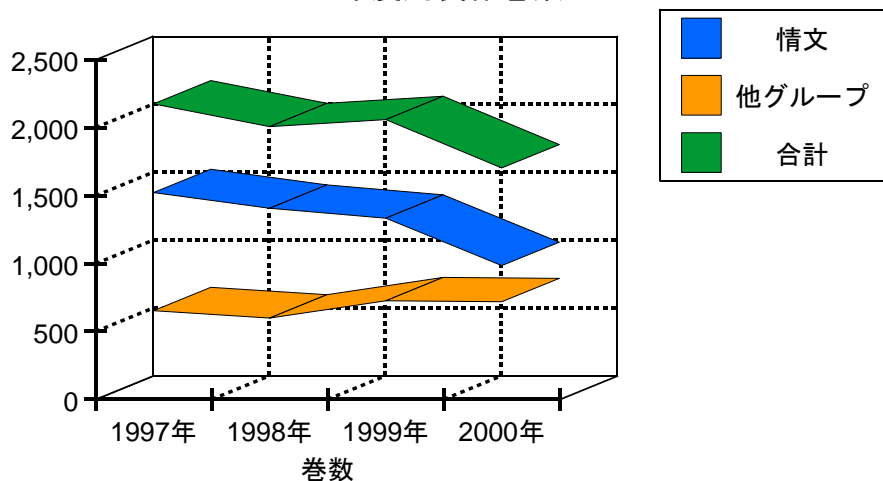
ボランティア数（4月1日現在） 130名 （うち 未活動10名）
 2000年度講習会修了者数 10名

年度別製作数



	1997年	1998年	1999年	2000年
情文	294	271	240	215
他グループ	120	107	108	143
合計	414	378	348	358

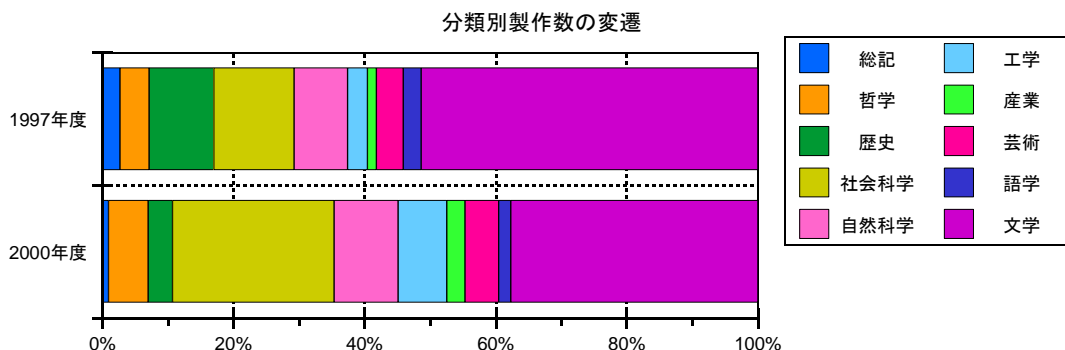
年度別製作巻数



	1997年	1998年	1999年	2000年
情文	1,522	1,407	1,335	985
他グループ	653	600	726	720
合計	2,175	2,007	2,061	1,705

4) 分類別製作統計

1997年に比べ2000年度は文学書の比率が減少し、社会科学、自然科学のウエイトが上がっています。



1997年度製作タイトル数

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学
情 文	8	13	29	36	24	9	4	12	8	151
%	3%	4%	10%	12%	8%	3%	1%	4%	3%	51%

2000年度製作タイトル数

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学
情 文	2	13	8	53	21	16	6	11	4	81
%	1%	6%	4%	25%	10%	7%	3%	5%	2%	38%

5-1) 利用統計

点字図書の貸し出し数も1997年を頂点に減少する傾向があります。晴眼者も本離れが叫ばれて久しいですが、視覚障害者の世界でも点字図書の利用は減少しています。

視覚障害者の情報摂取手段も多様化し、情文でもフロッピー図書やデジター図書の貸し出しも始まりました。また、ないぶネットを通じて点字データの入手もできます。

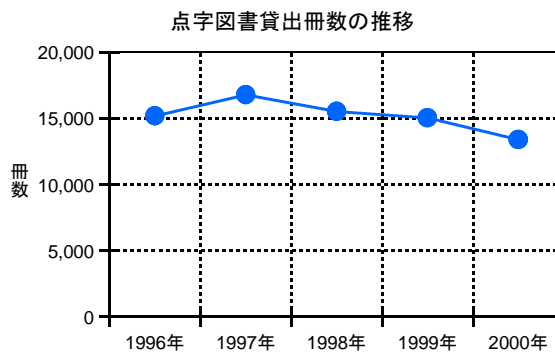
ハード面でも「ヨメール」などに代表される墨字図書を直接音声化するOCRソフトや、インターネットの音声化ブラウザなど便利なツールも供給されています。

しかし、便利な道具も利用できる人はまだまだ一握りのパワーユーザーであり、多くの人は従来通りの紙に打ち出された点字を利用しています。ペーパーレスが叫ばれて久しいですが現状では紙の消費が伸びています。便利な機器がこれからも開発されてゆくことですが、それによって、紙に打ち出された点字の価値がなくなるものではありません。

多様化する情報の摂取は大いに歓迎するところであり、点字製作の部門でも効率よく供給できる体制を考えてゆかなければなりません。

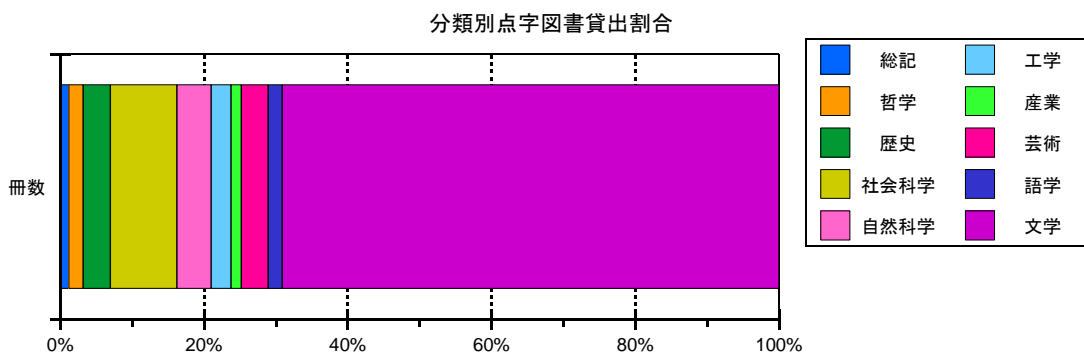
点字図書貸出冊数の推移

	冊数
1996年	15,158
1997年	16,747
1998年	15,504
1999年	15,003
2000年	13,363



5-2) 分類別点字図書貸出統計

文学書の利用は 約 70% と製作との乖離が見られます。



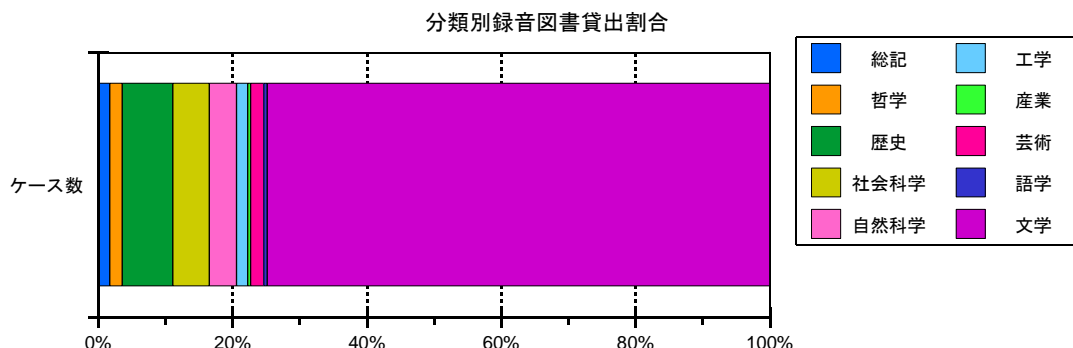
点字図書 (雑誌・児童書を除く)

分類	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	合計
冊数	156	252	484	1,189	608	350	186	474	254	8,838	12,791
タイトル数	40	64	123	303	155	89	47	121	65	2,255	3,263
%	1%	2%	4%	9%	5%	3%	1%	4%	2%	69%	—

(タイトル数は「冊数÷3.92」で計算しました)

5-3) 分類別録音図書貸出統計

文学書の比率は75%と点字図書の比率を上回ります。これは点字図書館の独特の傾向ではなく、公共図書館の貸出統計や、出版統計にも当てはまるものです。



録音図書（雑誌・児童書を除く）

分類	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	合計
ケース数	575	612	2,480	1,811	1,330	550	141	654	179	24,745	33,077
タイトル数	147	156	633	462	339	140	36	167	46	6,313	8,438
%	2%	2%	7%	5%	4%	2%	0%	2%	1%	75%	—

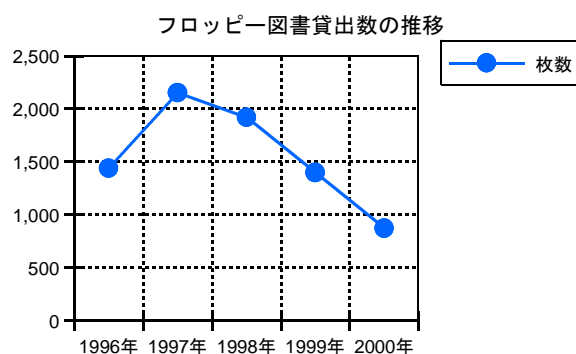
(タイトル数は「ケース数×6.66÷5.12」で計算しました)

5-4) フロッピー図書（点字データ）貸出統計

フロッピー図書も1997年度をピークに減少傾向があります。

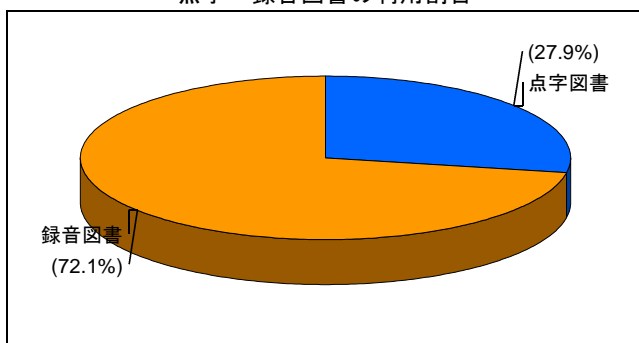
フロッピー図書（点字データ）

	枚数
1996年	1,439
1997年	2,152
1998年	1,917
1999年	1,397
2000年	872



5-5) 点字図書と録音図書の貸出比較

点字・録音図書の利用割合



点字図書と録音図書の割合は3対7で録音図書の比率が多くなっています。



2001年度の重点目標

- ◎ 『読み方辞書』を拡充し正しい情報の提供に努める
- ◎ 製作量の増大、他館取り寄せなどを通じ提供できる図書の増加をはかる
- ◎ FD図書（DOS/V版）、CD図書の提供

新たな問題点

残念ながら2000年度も製作量の減少傾向に歯止めをかけることができませんでしたが、教科書、リクエスト図書を含めた全体の供給量は微増傾向にあると実感しています。

しかしながら、教科書やリクエスト図書は一人ないし少数の人を対象とした図書製作であり、多くの利用者は蔵書中から読みたい図書を選択しているのが現状です。貸出数の増減は図書の供給量や供給ジャンルに深く関わっています。

限られた製作量では、リクエストと蔵書製作が取り合っているかのように見えますが、利用者にとってどちらも有用なサービスの一つです。教科書やリクエストと蔵書製作を対立的にとらえるのではなく、製作量を増やすことによりいい意味での解消（どちらも満足できる製作量の確保）を図ってゆかなければならないと考えています。

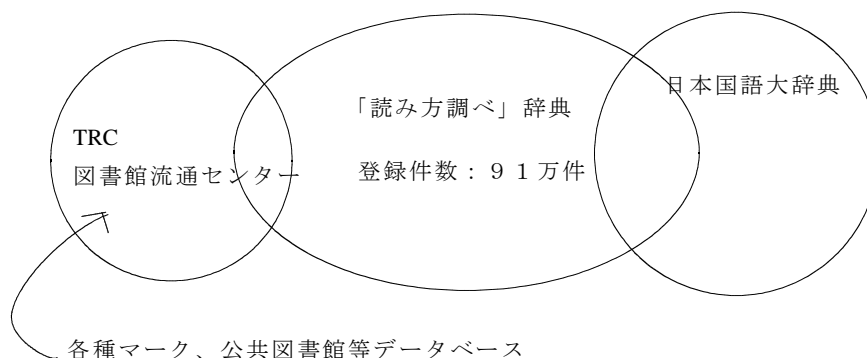
点字図書館界に革命をもたらした「ないぶネット（旧てんやく広場）」のシステムがいよいよインターネット化され、会員以外でもアクセスできるようになりました（書誌検索は現在メンテナンス中、6月より可能）。開かれた存在になったことは大変喜ばしいことですが、一方システムの変更により点字製作系の業務には若干の影響が出ています。

従来、点字製作の図書管理システムとないぶネットを連動させて、点字データを登録していましたが、今回の新システムによりその方法が取れなくなり、着手登録やデータ登録に少し手間がかかるようになりました。一時相当遅れていた登録は新しい操作にも徐々に慣れ、現在遅れを解消しつつあります。今後新システムの構造を解析し、点字製作のシステムと結合させ、すべての業務がスムーズに進められるように考えていく予定です。

『読み方調べ』辞書の活用

『読み方調べ』辞書の登録件数も91万件（登録辞書数：140種以上）を越え、実用的なものになってきました。最近では録音製作のパソコンとも接続し、音訳ボランティアの方々にも活用していただいております。

今年度はこの辞書の充実と活用をはかり、正確で早く、効率的に点訳をできるよう目標を100万件突破を目指しています。



登録件数が増えるにつれヒット率が高まりましたが、苦手とするジャンルもあります。

一つは次々に出版される新刊図書の書名と新しい著者名です。これらを調べるツールとしてインターネット上に「TRC 図書館流通センター」マークや公共図書館・大学図書館のデータベースがあります。特にTRCは新刊図書に素早く対処しており、便利に利用しています。

もう一つの対抗馬は小学館発行の『日本国語大辞典』（全10巻：3階に配架）です。こんな言葉までと感心するぐらい様々な言葉が掲載されています。

これらの資料をすべて包含するには並大抵の努力ではできません。が、徐々に外堀を埋めてゆく計画です。『日本国語大辞典』に対しては、各種専門辞書を登録し、包囲していく予定です。『TRCマーク』に対しては当分は傍観、必要に応じて検索し登録する予定です。

膨大なデータベースであるTRCにも欠点があります。登録されている図書は「1980年1月以降に出版された日本の新刊書籍」のみで、それ以前の図書を検索することはできません。しばらくは、新刊図書の検索はTRCに任せ、それ以前に発刊された図書の登録に努めていきます。

読み方調べのツールとして

パソコンを利用して検索するのが苦手で、墨字辞書を駆使し下調べをされていた方も数多くおられると思います。2、3年前までは登録数が比較的少なく、数多くある辞書の中の一つとして利用していただいていた。が、登録数も増え実用段階をむかえた、今や日本一の辞書と豪語してもはばからない存在となりました。他の辞書で見つからない項目でも今一度『読み方調べ』で調べてください。理想的には **最初に使っただければ効率がいい** のですが、得手不得手もあり方法は問いません。

すでに利用していただいた方は、あらゆる辞書を利用しても出てこなかった言葉が、一瞬にして表示されたことに驚かれています。最初は面倒でもすぐに慣れます。一度使っただければその良さは実感できるはずです。

必ず「読み方調べ」で調べる

漢字の処理は時代時代によって違ってきました。初期の頃は辞書も少なく、推定読みが当たり前で参考図書の紹介は省くという時代もありました。辞書が増えるにつれ推定読みの割合が下がってきたのは当然のことと思います。

90万件を越えたとは言え、まだまだ不十分なところはありますが、今年度の登録数の拡充と、『読み方辞書』で調べないものは推定読みをしないことを目標にしたいと思います。正しく読むということは点訳の基本中の基本^{*1}です。『読み方調べ』に登録されていない漢字はインターネット等で調べます。木村・中村まで遠慮なく申しつけてください。

遠慮される方もありますが、**いい図書を作るのに遠慮は不要です。**

新たなメディアを追加

視覚障害者のパソコン環境は MS-DOS 一辺倒から Windows の世界へと変化してきました。それに伴い BASE データのみの FD 図書も BES データの追加が必要です。また、同じ著者の作品や、同じテーマの作品を一枚の CD にまとめた CD 図書も計画しています。さらに、出版界でベストテンに上がった図書は製作するか他館から取り寄せて提供してゆきます。

点字製作の作業量の増大だけでなく、書庫スペースや、新刊案内『読書』の発刊方法にも関係してきます。各系の協力を得て、よりよいサービスを目指してゆきたいと思っております。

*1**基本中の基本** 正確な読みをすること当然のことですが、どうしても出てこない漢字は推定読みする以外ありません。利用者にとできるだけ早く提供するのも大事なことです。

Timetable

- 5月17日 木 コモド（楽譜点訳グループ）活動日
18日 金 数学の勉強会
22日 火 英語勉強会 グループ Y.Y.
23日 水 エンジョイ！グッズサロン、オープン
6月 5日 火 勉強会 13:30～ 「日本ライトハウスって？」
7日 木 コモド（楽譜点訳グループ）活動日
8日 金 曜日担当者勉強会
11日 月 ボランティア友の会見学 滋賀県立点字図書館
13日 水 2校者の集まり 13:00～
20日 水 「表の点訳」講座 13:30～15:30 （以降、第1・3水曜日、6回を予定）
21日 木 コモド（楽譜点訳グループ）活動日
23日 土 第19回チャリティーコンサート
26日 火 英語勉強会 グループ Y.Y.
7月18日 水 近畿点字研究会（於：情文）

お願い 勉強会

点訳通信41・42号でもお知らせしましたように、今までは点訳中に調べた語について、原本に正しい読みを、また、ルールと離れたことをしたい場合には、その旨を記入して頂いていましたが、この度、より円滑な2校を進めるために、**下記のような記号を使って点訳者の意思表示**をして頂くことに決まりました。これによって2校者が再度調べる手間も省け、また点訳者の意思もよく伝わるようになると思います。なお、実施は、現在点訳中の箇所からはじめてください。

- ◎ 辞書などで調べたもの
- ? 辞書になく推測読み、点訳ルール上で迷っているもの
- ⊕ ルールを理解した上で切れ続きを変えたい場合（希望のキの意味）

クイズ

下記の漢字は読めますか。『読み方辞書』でも調べられます。一度挑戦してください
答えは次回の『点訳通信』で。

襟刳 御髪 膾膾臍 慈姑 蟀谷 辛夷 青蝦 頭陀袋 芋茎 背黄青鸚哥
算盤尽 狸蕎麦 棚牡丹 薯蕷汁 都々逸 砥粉 等閑 仮漆 発条 木菟
蚯蚓 眩暈 七五三縄 黍魚子 九十九髪 猩々 小鱈